

九州工業大学における教育職員の評価について  
平成30年度（2018年度）実施分

— 平成31年2月 —  
九州工業大学

## 目 次

I	はじめに	P1
II	教育職員評価の実施方法の概要	P2
III	評価結果について	P3
	1. 教育職員評価の申請状況	
	2. 5段階の総合評価：全体（302人）の割合と職階分布	
	3. 5段階の総合評価：職階別（人数・割合）	
	4. 評価領域別評点分布	
	5. 職階・評価領域別評点平均	
	6. 前回実施との比較	
	1) 総合評価：職階別比較	
	2) 評価領域別ウエイト：職階別比較	
	3) 職階別総合評価平均点	

## I はじめに

平成 30 年度に実施した教育職員評価の結果をとりまとめましたので、評価方法と併せて公表いたします。

本学では、3 年に一度教育職員評価を実施し、優れている教育職員については適切な認知・表彰などにより意欲を高め、「改善を要する」、あるいは「改善の余地がある」と判断した教育職員に対しては指導・助言による改善を支援し、また、「適切である」と判断した教育職員に対しても必要に応じた助言により更なる向上を支援してきました。これらを通じて教育職員全体の教育研究等の水準向上に努めており、これは本学のステークホルダーである学生とその保護者、教職員、地域社会等の満足度の向上、さらには本学の評価の向上につながるものと考えています。

5 回目となる平成 30 年度の教育職員評価においては、前回実施した平成 27 年度教育職員評価時のアンケートや各部局等からの意見、さらに、戦略会議、教育研究評議会でのご意見に加え、経営協議会での学外意見も反映できるよう、平成 29 年度まで、大学評価委員会において評価方法等の見直しについて慎重に議論を積み重ねてきました。

このような過程を踏まえ、評価制度に関する基本的な考え方は維持しつつ、大学に対する社会の期待に応えるべく、いくつかの修正を加えました。第一に、これまで4月～6月となっていた評価申請の期間及び6月から開始していた評価作業の期間を、できるだけ夏季休業期間（8月～9月）と重なるように設定し、教育職員の負担の軽減に努めました。第二に、評価の効果を高め、教育職員の活動のより一層の活性化を図るため、総合評価の見直しを行い、総合評価区分「改善の余地がある」を「改善を期待する」に変更するとともに、「適切である」以下の区分をそれぞれ10点ずつ引き上げ、より厳密で客観的な評価が行えるようにしました。第三に、平成27年度の教育職員評価での試行を踏まえ、研究の質に関する評価指標を正式に導入しました。これは、Elsevier社の文献データベースScopusに掲載されている論文の数及び被引用数について、分野間の補正（正規化）を行い、得られた値を研究の質の近似指標として評価に用いるものであり、研究分野を超えた公平な評価を目指して本学が先進的に行っている取組です。

教育職員評価を単なる評価に終わらせず、教育職員が自らを省みて今後の改善を思慮するためのポートフォリオとして活用できれば、実質を伴ったPDCAサイクルが実現され、教育研究等の改善につながるものと確信しています。今後、このような目的にも活用していくことを念頭に置きつつ、教育職員評価の改善に努めて参りたいと考えています。

理事・副学長（国際・評価担当）  
横 野 照 尚

## II 教育職員評価の実施方法の概要

### 1. 教育職員評価の目的

評価に基づく教育職員の序列化が目的ではなく、評価の高い者にはインセンティブを与えて良い所を一層伸ばし、低い者には改善のために適切な指導・助言を与えることにより、教育職員全体の教育研究水準の向上を目的とする

### 2. 評価実施年度

平成 30 年度（平成 18 年度より 3 年ごとに実施、今回が 5 回目）

### 3. 評価対象及び期間について

教育、社会貢献、管理運営の各領域：過去 3 年度分（平成 27 年度～平成 29 年度）

研究領域：過去 5 年度分（平成 25 年度～平成 29 年度）

### 4. 評価実施方法

「大学評価用データベースシステム」のデータを活用するとともに、評価申請者、評価者双方の作業の効率化を図る観点から、大学評価用データベースシステム内に構築されている「教育職員評価システム」を用いて評価を実施

### 5. 評価手順

①各教育職員は、大学評価用データベースシステム及び教育職員評価シート（Excel ファイルでダウンロード、アップロードが可能）にデータを入力し、評価を申請

②各部局等は、複数人の評価者により 2 段階（第 1 段階：系・専攻レベル、第 2 段階：部局レベル、但しセンター等は第 1 段階のみ）で、各評価領域について領域別評価を実施し、評価者コメントを記載

各部局等で評価者を務めた部局長等の全領域、及び副学長の管理運営業務、管理運営業務の多いセンターのセンター長としての業務について、学長・理事による評価を実施

③SS、S 評価（70 点、60 点）について、全学的視点から、学長、理事、部局長が協議し決定

④部局長等は、領域別評価、SS、S 評価についての全学協議の結果を踏まえ、

「特に優れている」（総合評価点 70 点）

「優れている」（総合評価点 50 点・60 点）

「適切である」（総合評価点 40 点以上 50 点未満）

「改善を期待する」（総合評価点 30 点以上 40 点未満）

「改善を要する」（総合評価点 30 点未満）

の 5 段階評価、及び申請内容に対するコメントを決定

⑤評価結果を各教育職員に内示。評価結果に対し意見がある場合は、意見申立が可能

⑥各部局等は、意見申立の内容について検討を行った上で、最終的な評価結果を決定し、各教育職員に通知

### 6. 評価結果の活用

①「改善を要する」と評価された教育職員に対しては改善計画書の提出を求めるとともに、部局長等が改善措置等のフォローを行う

「改善を期待する」と評価された教育職員についても必要に応じ部局長等の助言により更なる向上を支援

②昇給等（勤勉手当含む）の推薦に評価結果を反映させる。ただし、評価結果が真の評価の近似であることを考慮し、より真の評価に近づけるため、部局長等は評価結果の反映を調整できる

③「特に優れている」と評価された教育職員は、職員表彰の対象とする

### Ⅲ 評価結果について

#### 1. 教育職員評価の申請状況

(単位:名)

部局	研究系・専攻等名称	平成30年4月1日時点 在職者				評価対象外			評価対象者	免除許可者	評価希望許可者	評価対象者(確定)	未申請者	申請者
		教授	准教授・講師	助教	計	在職3年未満	任期付き	専門職教員						
大学院 工学研究院	機械知能工学研究系	16	7	8	31	0	3	0	28	0	0	28		
	建設社会工学研究系	9	5	1	15	0	1	0	14	0	0	14		
	電気電子工学研究系	9	13	6	28	0	2	0	26	0	0	26		
	物質工学研究系	10	15	7	32	1	1	0	30	0	0	30		
	基礎科学研究系	8	10	1	19	1	1	0	17	0	0	17		
	先端機能システム工学研究系	6	4	3	13	0	1	0	12	0	0	12		
小 計		58	54	26	138	2	9	0	127	0	0	127	0	127
大学院 情報工学 研究院	知能情報工学研究系	7	6	4	17	0	1	0	16	0	0	16		
	電子情報工学研究系	7	8	3	18	1	1	0	16	0	1	17		
	システム創成情報工学研究系	5	12	1	18	1	1	0	16	0	0	16		
	機械情報工学研究系	9	9	2	20	0	0	0	20	0	0	20		
	生命情報工学研究系	9	9	4	22	1	1	0	20	1	1	20		
	情報創成工学研究系	7	4	3	14	0	1	0	13	0	0	13		
小 計		44	48	17	109	3	5	0	101	1	2	102	0	102
大学院 生命体工学 研究科	生体機能応用工学研究系	12	10	1	23	2	2	0	19	0	1	20		
	人間知能システム工学研究系	8	8	1	17	0	0	0	17	0	0	17		
小 計		20	18	2	40	2	2	0	36	0	1	37	0	37
教養教育院	人文社会系	6	9	0	15	5	0	0	10	0	0	10		
	言語系	5	9	0	14	4	0	0	10	2	0	8		
小 計		11	18	0	29	9	0	0	20	2	0	18	0	18
学内共同 教育研究 施設	保健センター	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1		
	情報科学センター	1	2	4	7	0	0	0	7	0	0	7		
	マイクロ化総合技術センター	2	3	1	6	0	0	0	6	0	0	6		
	イノベーション推進機構	1	3	1	5	2	1	2	0	0	1	1		
	機器分析センター	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1		
	学習教育センター	0	2	2	4	1	0	1	2	0	1	3		
	宇宙環境技術ラボラトリー	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0		
	若手研究者フロンティア研究アカデミー	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0		
	インスティテューショナル・リサーチ室	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0		
	アドミッション・オフィス	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0		
	安全衛生推進室	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0		
学生総合支援室	0	2	0	2	0	0	1	1	0	0	1			
小 計		5	15	11	31	3	4	6	18	0	2	20	0	20
合 計		138	153	56	347	19	20	6	302	3	5	304	0	304

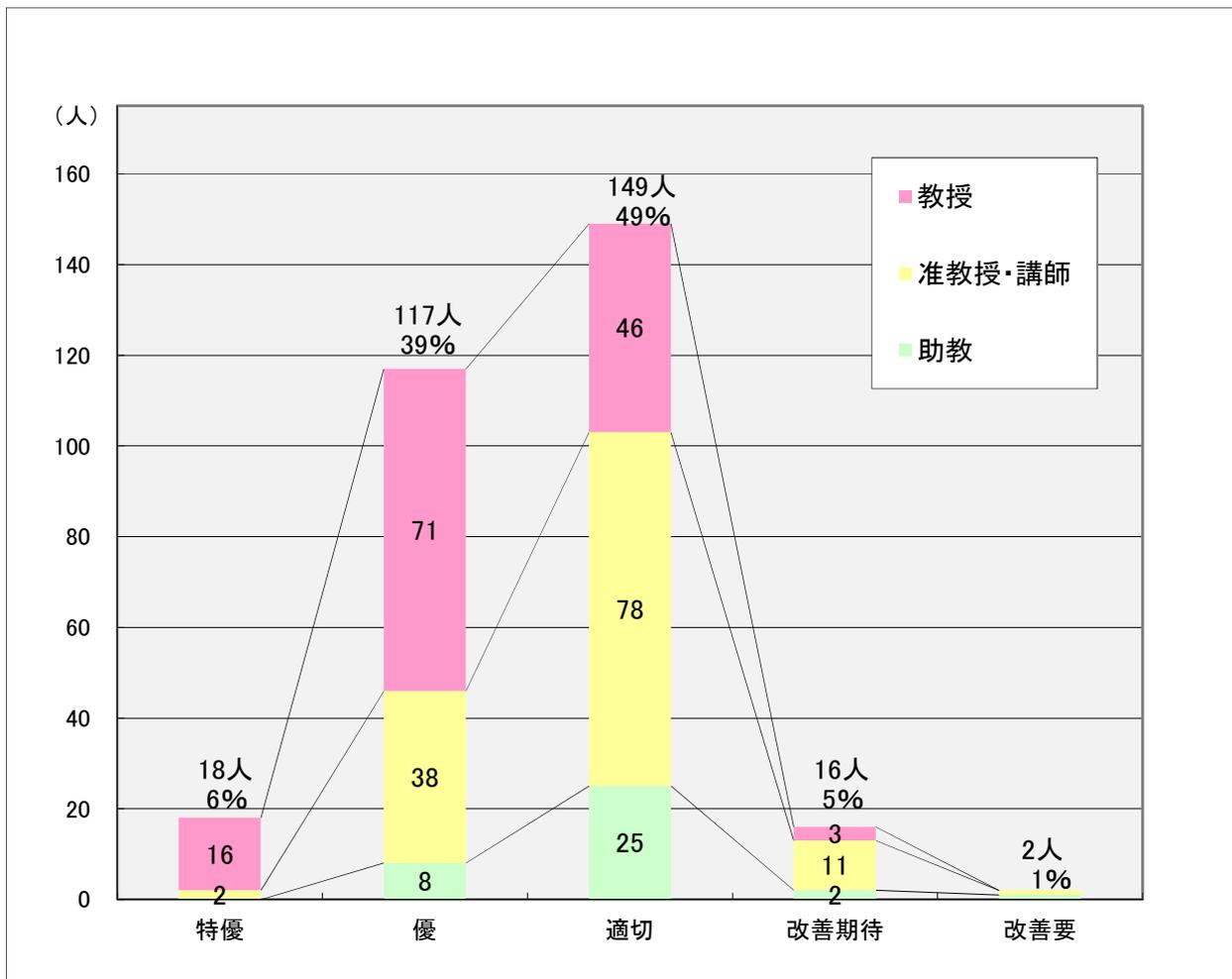
※1 「教育職員在籍者」は、平成30年4月1日現在の在職者。

※2 職名は平成30年4月1日現在。

※3 「評価対象外の在職3年未満」とは、平成30年4月1日現在において、本学に採用されてから3年未満の教育職員。

※4 評価申請者304名のうち、評価作業中に本学の職員ではなくなったため評価対象から除いた者2名。

## 2. 5段階の総合評価:全体(302人)の割合と職階分布



### 3. 5段階の総合評価: 職階別(人数・割合)

＜総合評価＞

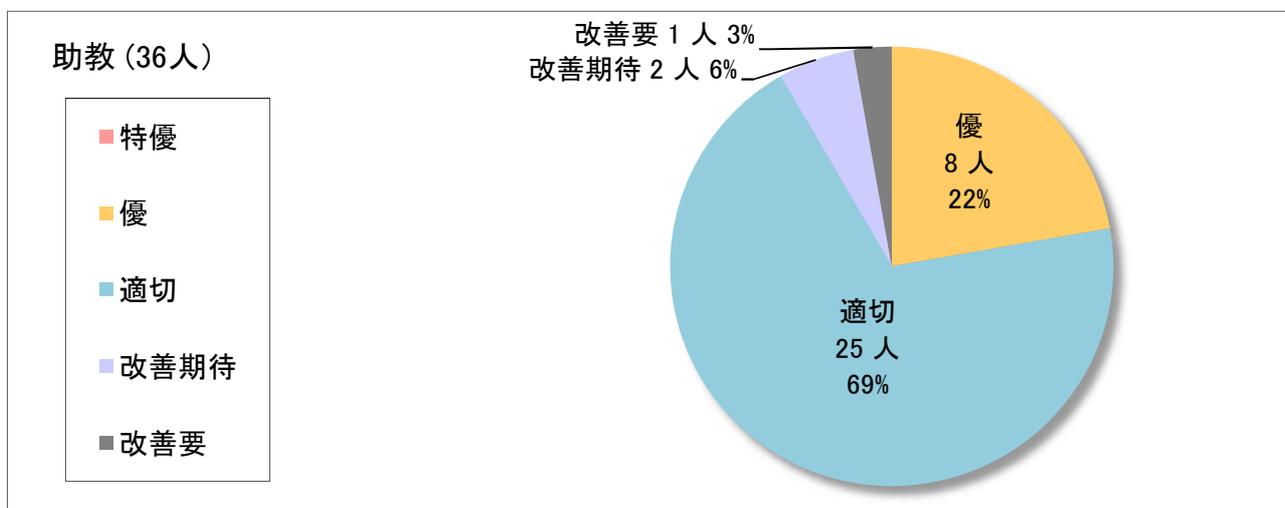
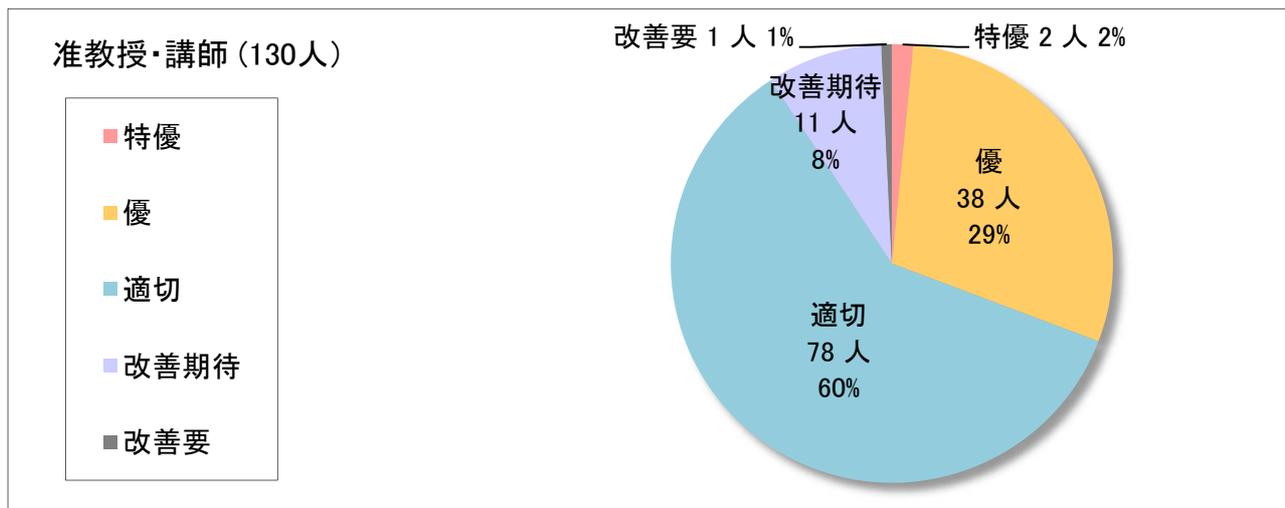
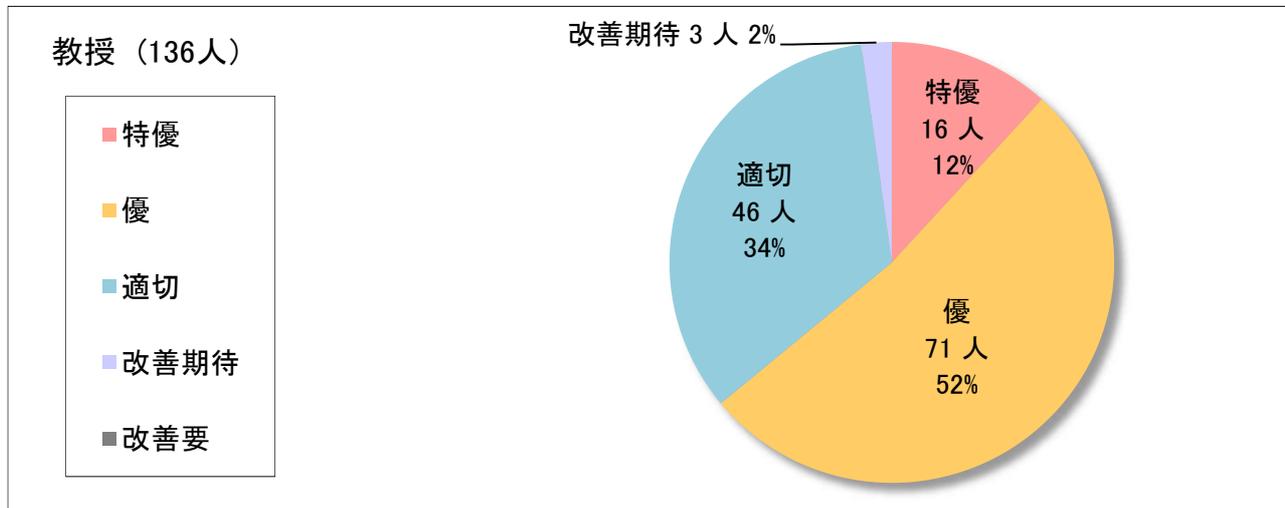
特に優れている(特優): いずれか1つの領域で70点、又は複数領域で60点

優れている(優): いずれか1つの領域で60点、又は50点

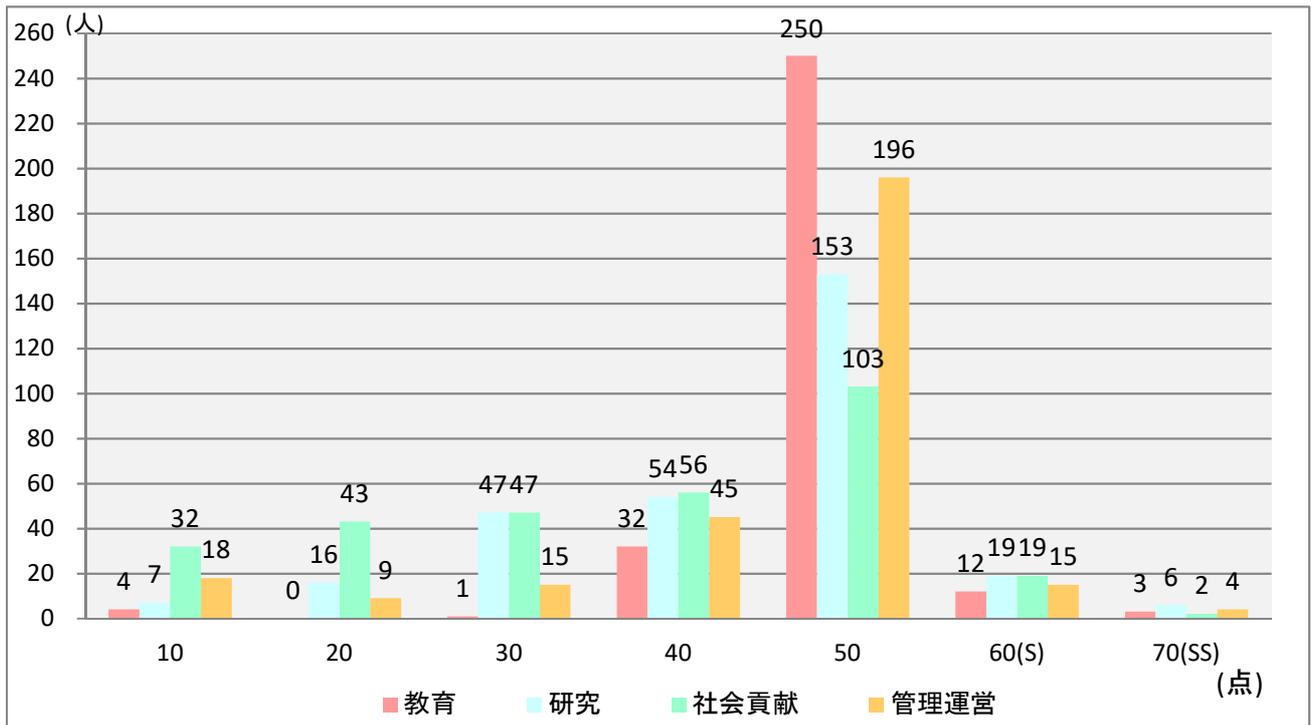
適切(適切である): 40点以上50点未満

改善期待(改善を期待する): 30点以上40点未満

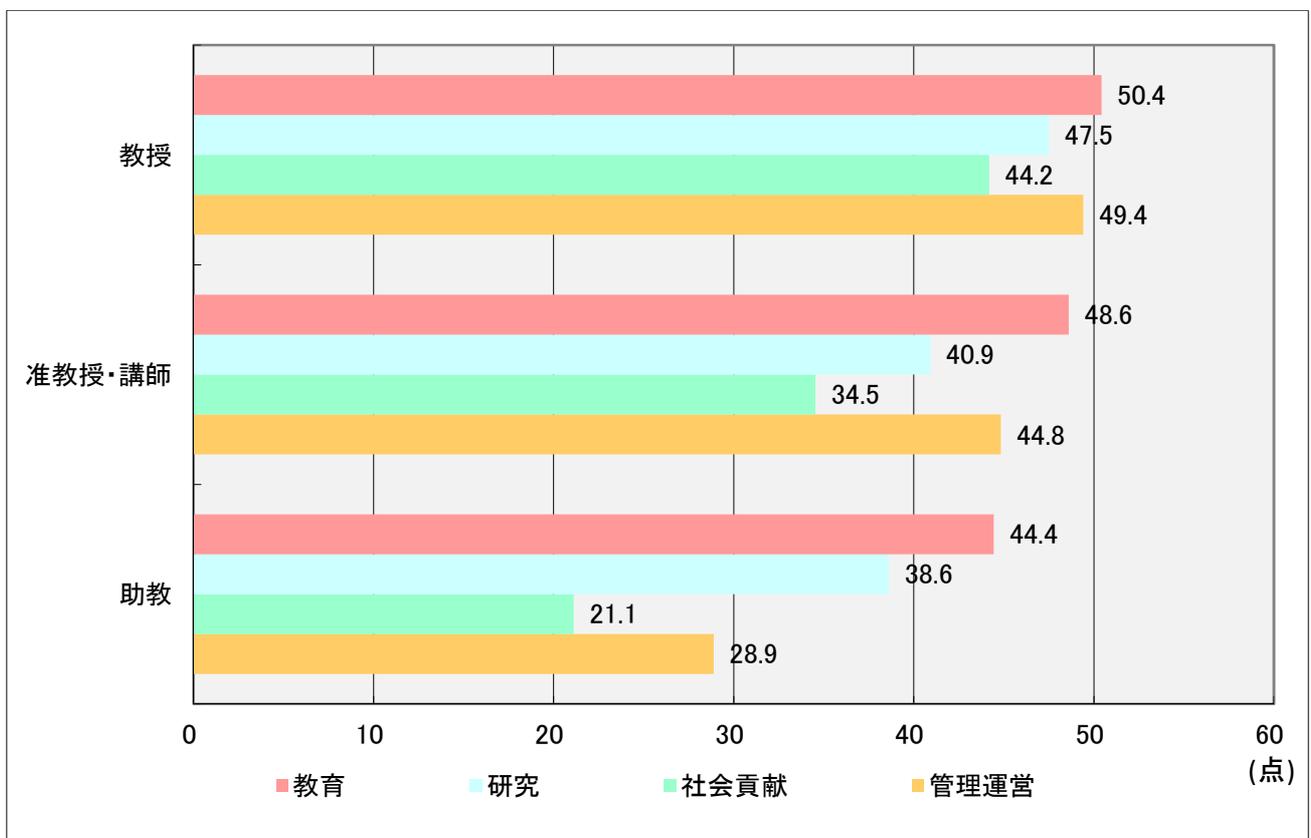
改善要(改善を要する): 30点未満



#### 4. 評価領域別評点分布

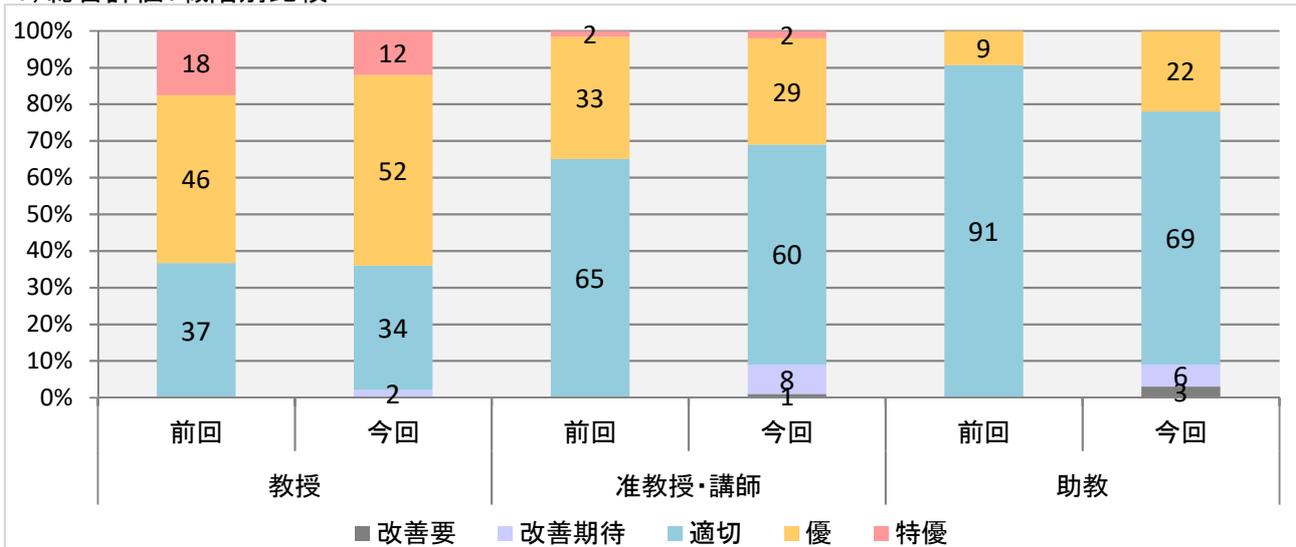


#### 5. 職階・評価領域別評点平均



## 6. 前回実施との比較

### 1) 総合評価: 職階別比較



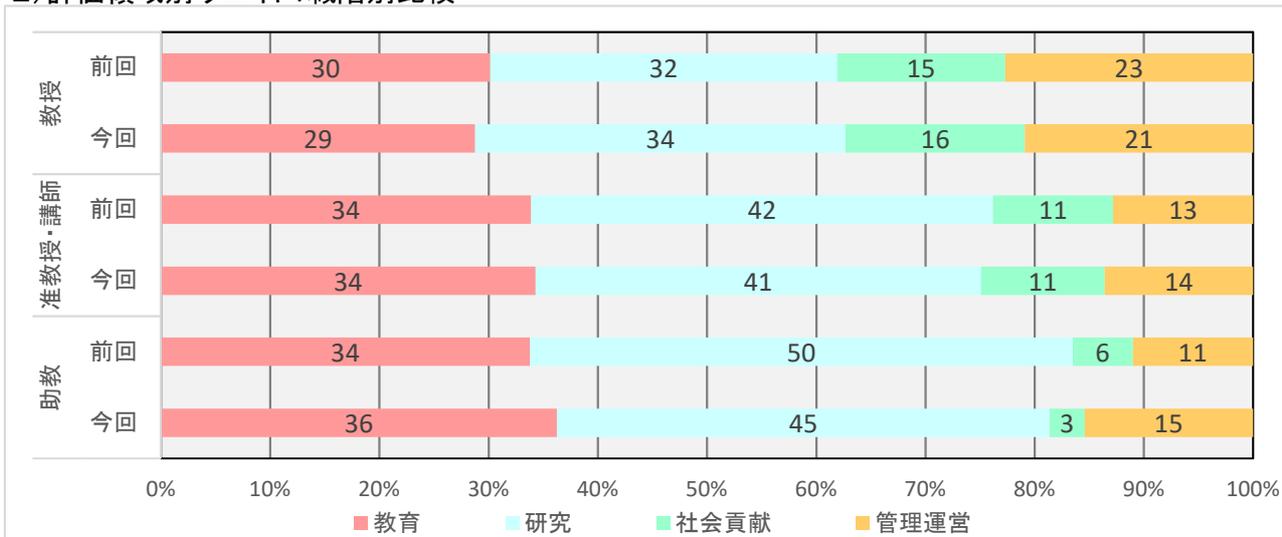
【前回】平成27年度

特優 1領域で70点又は複数領域で60点  
 優 1領域で60点又は50点  
 適切 30点以上50点未満  
 改善余地 20点以上30点未満 ※前回0名  
 改善要 20点未満 ※前回0名

【今回】平成30年度

特優 1領域で70点又は複数領域で60点  
 優 1領域で60点又は50点  
 適切 40点以上50点未満  
 改善期待 30点以上40点未満  
 改善要 30点未満

### 2) 評価領域別ウエイト: 職階別比較



### 3) 職階別総合評価平均点

